

令和5年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業受賞者の決定について

【要旨】

県では、本県三陸沿岸への研究人材の集積や海洋・水産研究の活性化を図るため、平成21年度から若手研究者を対象に、三陸をフィールドとした研究論文を募集・表彰する「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しています。

この度、令和5年度の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

1 今年度の論文応募数

6名（学生の部3名、一般の部3名）

2 岩手県知事賞・特別賞の選考

専門家及び有識者による選考委員会において、論文及び口頭発表の審査を行い、受賞者を決定。

3 受賞者及び受賞論文について（内容は別紙のとおり）

(1) 岩手県知事賞（2名）：岩手県三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	ねもと まゆ 根本 真夕 (22)	岩手大学大学院 総合科学研究科	廃棄された貝殻をpH調整剤として利用したグリコール酸の微生物合成
一般の部	いけのうえ たかひと 池上 隆仁 (39)	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	北日本沿岸海域のコンブ類を用いた海水中の放射性ヨウ素-129濃度指標に関する研究

(2) 特別賞（2名）：今後の研究継続により、更なる成果が見込まれる研究又は独創性が高い内容のもの ア 特別賞（人文社会学分野） ※過去応募がなかった人文社会学分野からの受賞

部門	氏名	所属	論文タイトル
一般の部	よしむら けんじ 吉村 健司 (40)	国立民族学博物館	流通の歴史的変遷から見る三陸サケの社会的機能

イ 特別賞

部門	氏名	所属	論文タイトル
一般の部	なかじま としみ 中島 壽視 (27)	東京大学 大気海洋研究所	三陸沿岸海域への栄養塩輸送経路としての地下水湧出に関する研究

※ 令和5年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業 選考委員名簿

氏名	所属	職名	専門分野等
青山 潤 (委員長)	東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター	センター長	魚類生態学
菅野 信弘	北里大学海洋生命科学部	学部長	生理化学、応用生物化学
平井 俊朗	岩手大学三陸水産研究センター	センター長	生殖生物学、内分泌学、生産増殖学、分子生物学
湯浅 啓	国立研究開発法人水産研究・教育機構宮古庁舎	特任部長	水産生物学
神 康俊	岩手県水産技術センター	所長	水産学、行政関係者
藤原 由喜江	岩手県ふるさと振興部科学・情報政策室	室長	行政関係者

【参考】論文の概要について

1 岩手県知事賞（2名）

氏名	所属	論文タイトル
ねもと まゆ 根本 真夕 (22)	岩手大学大学院 総合科学研究科	廃棄された貝殻を pH 調整剤として利用したグリコール酸の微生物合成
<p>【論文要旨】 大腸菌を用いた高生産なグリコール酸（GA）合成に向けた課題のひとつとして、培養時に培地中に蓄積されたGAによる培地の酸性化がある。培地中にGAが放出されると、培地が酸性化し、GA合成大腸菌の生育が抑制されることでGAの生産が頭打ちになる。この問題に対し、本研究では現在大量に廃棄され、有効活用法が求められている廃棄貝殻がGA生産時における培地のpH調整剤として使用可能であるかどうかを検討した。</p>		
氏名	所属	論文タイトル
いけのうえ たかひと 池上 隆仁 (39)	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	北日本沿岸海域のコンプ類を用いた海水中の放射性ヨウ素-129 濃度指標に関する研究
<p>【論文要旨】 北日本沿岸のコンプ類の¹²⁹Iの経年変化を調べた。コンプ類の¹²⁹I濃度は、六ヶ所村再処理施設の試験運転による¹²⁹I 放出量最大時及び東電福島第一原発事故直後においても、食品の規制値100 Bq/kgを大きく下回った。しかし、¹²⁹I/¹²⁷I原子数比は、海水中の¹²⁹I濃度の微増を鋭敏に反映し、コンプ類が沿岸の¹²⁹I濃度を簡便かつ定量的にモニタリングするための優れた指標となることが分かった。</p>		

2 特別賞（2名）

(1) 特別賞（人文社会学分野）

氏名	所属	論文タイトル
よしむら けんじ 吉村 健司 (40)	国立民族学博物館	流通の歴史的変遷から見る三陸サケの社会的機能
<p>【論文要旨】 サケは歴史的に地域社会において文化的に深い関わりを持つなど、日本人に馴染み深い魚である。本稿では、三陸地方におけるサケが有する社会的機能について、「流通」の視点から考察する。サケは、三陸地方では古くから文化的・社会的価値の高い希少な存在であり、近隣から遠方まで様々な地理的スケールの間で、多様な形で利用されてきた。サケの流通は、三陸地方における文化的・社会的機能を構成する重要な要素の一つである。</p>		

(2) 特別賞

氏名	所属	論文タイトル
なかじま としみ 中島 壽視 (27)	東京大学 大気海洋研究所	三陸沿岸海域への栄養塩輸送経路としての地下水湧出に関する研究
<p>【論文要旨】 本研究では、気仙沼湾奥部の舞根湾を対象として、栄養塩供給源としての地下水の重要性を評価した。地下水の栄養塩輸送量は河川水のそれを上回り、重要な栄養塩供給源であった。また、地下水に対する植物プランクトンの増殖応答を現場培養実験から評価し、地下水に含まれる窒素が一次生産を活性化することを明らかにした。以上より、地下水による栄養塩輸送は三陸沿岸海域の高い生物生産性の維持に貢献していることを示した。</p>		